



新年のご挨拶

農業振興センター所長 長沢 秀起

明けましておめでとうございます。



本年が、農業者の皆様にとって更に充実した年となりますようお祈り申し上げます。

農業・農村を取り巻く環境は、国の方向性や TPP などによるグローバル化の流れの中で刻々と変化してきております。

農政としても、このような課題に迅速に対応することで、試練をチャンスにしていかなければなりません。

神戸市農政は、里づくりの推進による農村地域の活性化、そして、農産物のブランド化・地産地消の推進など神戸らしい都市型農漁業の展開などの取り組みによって、日々、農業・農村の発展を目指しています。

農業振興センターはその中で、地域振興から農業生産の振興、そして担い手育成と幅広く担わせていただいております。

今年も、皆様とともに一層の飛躍の年にできますよう農業振興センター職員が一丸となって頑張っていく所存ですので、どうぞよろしく願いたします。

特に今年は、新たに移住定住起業支援など「神戸里山暮らしの実現」に向けた取り組みを進めるとともに、引き続き、農村地域の魅力・元気アップへの支援、そして、平成 30 年の生産調整廃止に向けた競争力のある水田農業の実現、更に神戸農業の特徴でありますハイレベルな園芸や畜産農業の一層のパワーアップに取り組んでいきたいと考えています。

また、有害鳥獣対策にも一層取り組んでまいります。

最後になりますが、皆様のこの一年のご健康とご多幸をお祈りして、新年のご挨拶とさせていただきます。

トピックス



神戸アグリマイスターの紹介 ①



神戸市では、卓越した農業技術を有し、優秀な経営を実現している農業者をアグリマイスターとして認定し、農業の理解促進や担い手の育成・確保等に活躍いただいております。

さいもと よしひろ

再本 好弘 氏 【平成 18 年度認定】

西区伊川谷町で、キクナ・ハウレンソウなどの軟弱野菜をハウス（約 46a）で周年栽培。

神戸市の野菜契約栽培の頃から産地をけん引してきたトップランナーとして、高品質な野菜の周年栽培体系の確立に尽力。

「野菜づくりはまず土づくりから。難しく根気のいることだが、産地として若い人がが



んばってもらえる環境を整え、市民に安全・安心でおいしい野菜を届けたい。」と、元気澆刺。

つねみ てるお

常深 輝夫 氏 【平成 19 年度認定】

北区淡河町で新鉄砲ユリ約 35a を栽培。特に育種に熱心に取り組み、産地として優良系統の維持を図りつつ、「プリンセス淡河」といったトップブランドの育成に尽力。

「これまで産地みんなの知恵や力をあわせて品種の開発に携わってきた。これからも究極の新鉄砲ユリを栽培し、消費者に感動を与える花づくりをめざしていきたい。」と、意気軒昂。



28年産米作付の取り組み方針

昨年12月24日(木)、神戸国際会館において、「神戸市農業活性化協議会」の「米の数量配分部会」(部会長 池野信雄)が開催され、28年産米の作付けについて、取り組み方針と生産数量目標の北、西の配分が決まりました。

取り組み方針では、『国の制度を活用するだけでなく、農業者の営農意欲を尊重した規模拡大への取り組みや、競争力の向上、水田農業の活性化を図る』としています。

生産数量目標(玄米重)については、27年産並みの配分となり、本市には前年比100.1%の配分がありました(県全体では98.9%)。

面積換算では、配分基準単収が511kg/10a(27年産は512kg/10a)となったため、前年比100.3%となりました。

これらの目標は、前年度と同じ割合で、北と西の各地域水田農業推進協議会に配分されることになりました。



兵庫県農業賞表彰



平成27年度兵庫県農業賞の表彰が、11月30日に兵庫県公館において行われ、神戸市から下記の方が受賞されました。

おめでとうございます。

ふじもと よしろう

◇藤本 喜郎 氏 【北区大沢町】

[功績内容]

ぶどうなど果樹の省力安定生産技術の確立と特産物の育成への貢献

「神戸の農業に関するアンケート調査」(No.1)

・27年1月～2月に実施した「2015年農林業センサス」と併せて行ったアンケート調査の結果についてご報告します。

(数字は、全体のうちの割合です)

- ・実施時期：平成27年1月～2月
- ・対象者：市内農業者(配布数6,380枚)
- ・回答者：5,019名回答(北区2,000名、西区2,886名、その他133名)
- 回答率78.6%

I 将来のことについて

- 1 農業を続けていく上での問題点
 - ①「農機具等の投資・更新が難しい」55%
 - ②「農産物の価格が安く、先行きが不安」48%
 - ③「後継者がいない」47%
- 2 今後の営農方針について
 - ①「現状維持」58%
 - ②「わからない」16%
 - ③「廃農したい」11%
- 3 作れない農地をどうするか
 - ①「貸す」24%
 - ②「集落営農にまかせる」21%
 - ③「何もしない」19%
- 4 作れない農地を貸す・売る相手について
※「貸す」「売る」を選択した1,575名を対象
 - ①「地元」39%
 - ②「誰でもよい」35%
 - ③「縁故者」16%
- 5 機械の更新について
 - (1)トラクター
 - ①「更新する」39%
 - ②「わからない」26%
 - ③「更新しない」26%
 - (2)田植え機
 - ①「わからない」28%
 - ②「更新しない」26%
 - ③「更新する」21%
 - (3)コンバイン
 - ①「わからない」29%
 - ②「更新しない」28%
 - ③「更新する」17%



PCでミニ通信が見られます



農業振興センターのホームページで、平成27年4月号からのミニ通信が、カラー版でごらんいただけるようになりました。

(毎月25日に更新します。)

農業 ミニ通信

検索

